

準備委員会企画シンポジウム 3

自伝的記憶と成長との関係を考える —生涯教育の様々なステージで—

【企画趣旨】

人間は、青年期を過ぎても発達し、学び、成長し続ける存在である。その生涯を通しての成長にとって重要な役割を果たすものの一つに、自身が経験した出来事の記憶である自伝的記憶があげられる。自伝的記憶には、自己を確立し維持する機能（自己機能）、自らの考え方や行動を方向づける機能（方向づけ機能）、他者との関係性を確認し維持、強化する機能（社会機能）などがあると考えられている。これらの機能は、人生のさまざまな時期において、個人を成長させ、安定させ、生活の質を高める上で重要な役割を果たしていると考えられる。

本シンポジウムでは、自伝的記憶の機能や自伝的推論などに関する一般的な話題提供に続いて、児童期から老年期に至る各ステージにおいて自伝的記憶がどのような機能を持ち、どのような介入、はたらきかけが自伝的記憶の機能の十分な発揮に繋がるのか、などについて具体的な話題提供をいただく予定である。各話題提供者は、生涯の各ステージにおいて自伝的記憶が果たす役割について、それぞれの考え方に基づき、実践的に研究されてきた研究者である。具体的でかつ示唆に富んだ話題提供がいただけるものと思われる期待される。これらの話題提供に基づき、自伝的記憶の機能が広い意味での教育の中でどのように捉えられ、生かされるのか、自伝的記憶研究を教育において役立てるためにはどうしたらよいのか、などについて話題提供者、指定討論者、フロアの先生方と共に議論したい。